

薬草栽培だより

No. 108 令和6年6月24日

富山県薬事総合研究開発センター
薬用植物指導センター

〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732
電話 076-472-0801
FAX 076-472-0353

薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

1. 気象経過

月平均気温は、4月は14.3℃(平年差+2.0℃)と平年に比べかなり高く、5月は17.9℃(平年差+0.4℃)と平年並となりました。降水量は、4月は178.5mm(平年比133%)と平年に比べ多く、5月は228.5mm(平年比186%)と多くなりました。向こう3か月の季節予報では気温が高く、降水量は平年並となることから、適切な病害虫・雑草防除をお願いします。

2. 当センターでの生育状況

(1) トウキ

苗づくりについては、6月7日に播種し、直後にもみ殻を散布し、トンネル状の遮光ネットを掛けて土壤の乾燥を防ぎ、発芽を促しています。遮光ネットは、夏場の高温・乾燥対策として掛けたままとし、9月に外す予定です。

昨年秋、及び4月に苗を定植した試験ほ場については、5月下旬からキアゲハ及びアブラムシが発生したため、すみやかに殺虫剤散布により対処しました。



キアゲハ被害株

アブラムシ被害株

(2) シャクヤク

気温が高く推移したため、開花は平年に比べやや早くなりました。

3. ほ場の排水対策

ほ場内に雨水が停滞しないよう排水溝の手直しなど排水対策を行います。

4. 作物別管理

(1) トウキの栽培管理

①苗床の除草

本葉が数枚展開した頃、雨後の土が湿った状態でトウキの根が抜けないよう注意して行います。

②追肥

施肥時期：6月(定植後約60日)、新葉が展開し草丈が15cm頃

肥料名	施肥量(kg/10a)
化成(NPK各15%)	30kg
油粕	50kg
過磷酸石灰	20kg

③害虫の防除

定期的に巡回して発生初期に対処します。

○キアゲハ(5~9月)：

プレバソンプロアブル5 2000倍、4回以内

○アブラムシ(5~10月)：

モスピラン顆粒水溶剤2000倍、5回以内

○ハダニ類(7~9月)：

コテツフロアブル2000倍、2回以内

(2) シャクヤクの栽培管理

シャクヤクは、9月頃まで根に貯蔵養分を蓄積する時期です。そのため、葉が枯れあがらないように、病害に注意し、株の年数に応じて追肥を行います。

①追肥

(kg/10a)

年目	肥料名	施肥時期		
		3月	6月	10月
1年	発酵鶏糞			150kg
2年	化成(NPK各15%)	40kg	80kg	40kg
	発酵鶏糞			300kg
3年	化成(NPK各15%)	40kg	80kg	40kg
	発酵鶏糞			300kg
4年	化成(NPK各15%)	40kg	80kg	

②病害の防除

うどんこ病は葉や茎に白色で粉状の菌叢が生じ、発病葉はやがて乾燥し枯れ上がります。風で飛散し次々に蔓延します。予防対策としてダコニール 1000【1000倍、収穫までに15回以内（但し、1年間に3回以内）】を月に1回散布します。

③除草剤散布

雑草の生育期（繁茂する前）に、飛散防止カバーを付けて、シャクヤクにかからないように注意して除草剤（タッチダウン iQ）を畦間処理します。



シャクヤクうどんこ病

ミシマサイコ、ホソバオケラなどについての相談は、薬用植物指導センターで対応していますのでご連絡ください。

県内の薬用作物栽培の現況

近年、中山間地、農業生産組織、担い手農家などから転作作物として、シャクヤク、トウキなど薬用作物の栽培が注目されています。

薬用作物の生産拡大を図るため、県では厚生部と農林水産部が連携し、薬用作物に関心のある農業者を対象にした生産拡大研修会や、収穫・加工技術の習得のための各種研修会を開催しています。

また、「富山型薬用作物生産協議会」では、シャクヤク掘取機の貸出と乾燥方法の改良・導入に取り組んでいます。

お知らせ

薬用作物生産技術確立プロジェクトチームでは、薬用作物の生産拡大を図るための生産拡大・収穫調製研修会等の開催を下記のとおり予定しています。ぜひ、多くの栽培農家の皆様にご参加いただきますようお知らせします。なお、詳細については、当センターにお問い合わせ

ください。

○令和6年度薬用作物生産拡大研修会

日時 令和6年8月6日（火）

13:15~16:00

場所 薬用植物指導センター 研修室

内容 薬用作物栽培に関心のある農業者や薬用作物生産者等を対象とし、実際の栽培圃場の見学及び、栽培方法等について研修を行う。

申込 富山県農林水産部農産食品課園芸振興係

電話：076-444-3284

FAX：076-444-4410

○シャクヤクの収穫調製研修会（予定）

日時 令和6年10月上中旬

場所 県内農家圃場

※開催時間、場所、申込方法等については9月頃案内します。

○薬用植物講演会

日時 令和6年11月21日（木）

14:30~16:00

場所 富山県民会館 704号室

演題 （仮題）「秋田県における薬用作物の生産拡大に向けた取り組み」

講師 客員研究員

秋田県農業試験場 野菜・花き部

上席研究員 横井 直人 先生

申込 薬用植物指導センター

電話：076-472-0801

FAX：076-472-0353



【春の粧】



【梵天】

薬用植物に使用出来る（登録）農薬について（令和6年6月調べ）

農薬には、作物や病害虫毎に使用出来る農薬の種類と使用方法が定められています。農薬容器（袋）に〔作物名、適用病害虫、希釈倍数、使用時期、使用回数、使用方法〕などが明記されていますので、使用書を遵守してください。また、登録の無い農薬は使用しないでください。

作物名	分類	適用病害虫（雑草）名	農薬の名称	使用回数
トウキ	除草剤	1年生雑草 (畦間処理)	ロックス(水和剤)：薬剂量 100g/10 a 散布量 70～150L/10 a	2回以内
		1年生雑草 (定植後雑草発生前)	ゴーゴーサン乳剤 300 ml/10 a 散布量 100L/10 a	1回
		1年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤：薬剂量 150～200ml/10 a、 散布量 100～150L/10 a	2回以内
		1年生雑草 (雑草茎葉散布)	ハスタ液剤：薬剂量 300～500ml/10a、 散布量 100～150L/10a	3回以内
	殺虫剤	アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 2000 倍	5回以内
		キアゲハ	プレバソフアブル5 2000 倍	4回以内
		ハダニ類	コテツフロアブル 2000 倍	2回以内
殺菌剤	斑点病	アミスター 20 フロアブル 2000 倍	3回以内	
シャクヤク	除草剤	1年生雑草 (萌芽前、雑草発生前)	トリアノサイド乳剤：薬剂量 300ml/10a、 散布量 100L/10a	5回以内 (1年間に 1回)
		1年生雑草 (畦間処理、雑草生育期)	タッチダウン iQ :薬剂量 250～500ml/10a、 散布量 25～100L/10a	3回以内
	殺菌剤	うどんこ病	ダコニール 1000 1000 倍	15回以内 (1年間に 3回以内)
		灰色かび病	ベンレート水和剤 1000 倍	10回以内 (1年間に 2回以内)